

刊夕日七十月一十



定価 一部全紙一ケ 五銭  
廣告料 五銭 十二字 一ケ 五銭  
日曜祭日の翌日休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

### 偶感録 [F]

巽 軒 學 人

殉國と献身  
頃る雑誌新聞等に折々殉國と云ふ文字を見るが、何う云ふ譯か何人も之を怪まないやうである。自分は人の之を怪まないのを甚だ怪むものである。殉國とは國難又は亡國に殉ずる意味で我邦を以て眞に危急存亡の秋に際するものと見るより之を言ふに外ならぬ。固より我邦にも缺點は種々ある。思想、風俗等感心されないことは多々あるであらう。併しそれだからと云つて、我邦を以て危急存亡の秋に際するもの、如く想像するのは極端で、種々非常識の行動をなす原因となる虞がないではない。殉國と云ふ言葉を使用する人は何れ愛國の士であらうから、必ずしも其動機を非難する譯ではないけれども、斯る言葉は人をして幕末に逆行せしむる如き時代錯誤の感を誘起することを免れないから、成るべく何とか改めて貰ひたいものである。

健全なる態度ではない。國際聯盟が其目的遂行に努力しつつあることは云ふ迄もなく、不戦條約も結ばれ、軍縮條約も成立し、永久平和の曙光も明かに見えて來たのであるから、幾分なりとも、之に貢献することを一身の光榮とする覺悟がなければならぬ時代である。さう云ふ積極的方面に幾多の献身的事業が横つて居るのである。それでいゆん國と云ふよりは寧ろ献身的事業と云ふ方面に着眼することが、現代要求の存する所であると思ふ

### 童話 逃げた猿 [二]

矢野 泰 助

さういふ中であつて、茂はたつた一人、猿のよい友達でした  
『お母さん、明神様の猿にやるもの、何かない？』  
茂は、毎朝、學校に行く時、かういつて、お母さんから、何かしらもらつて行き、それを二匹の猿にくれました。  
猿は、茂を見ると、遠くのうちから檻の端近くにきて、右へ歩いたり、左へ行つたりして、茂の來るのを待つて居ります。  
『今日は、人蔭だよ。そらありました (つとく)』

### 原稿募集

と茂が人蔭を出しますとたー公は、頂戴をします。  
『よし、もうこれつきりだよ。またあした。』  
といつて、茂は最後の人蔭を二匹に與へ、  
『あば、(左様ならの意と、學校へいそぐのでした。これが茂の日課の一つでありました (つとく)』

秋深し紅葉して  
山は紅葉して  
カメラ絶好のシーズン  
秋は寫眞の一番よく撮れる時です  
絶景川前溪谷の紅葉、今が見頃  
秋晴れの楽しいカメラの一日……  
優勝旗争奪戦  
第三回 小型カメラ懸賞寫眞募集  
來る十一月廿五日  
規定及詳細は當店ウインドーに掲載してあります  
十一月廿六日

賞品  
●高級名刺判カメラ 一組 一人  
●最高級金屬パイプ製三段式三脚 一個 一人  
●特製カメラ入靴 一個 三人  
●現像定着液 一組 五人  
●シヨリ臺紙一打或はアルバム一冊 十人  
●シヨリ臺紙一枚、進呈  
●但シ應募寫眞五十枚に満たぬ場合は延期の事  
平驛前 いづみや玩具店

花柳科専門  
木村外科醫院  
入院自炊の便あり  
平町五丁目橋際  
電話三〇九番

◎革靴自製部新設  
注文靴 修繕靴  
親切丁寧 請合靴  
●高級ゴム長靴 マルトモビル内  
●五圓均一靴 菊地靴店  
●各種靴類 電話呼四三六番

吉田眼科病院  
平紺屋町、電話六八番

石炭經濟の理想的ストーブ  
それは石炭商の  
立場より多年研究試験の結果  
フクロクストーブ  
に優るものなし  
ストロブ 御買上の際是非御相談下さい  
カタログ持参御説明申し上げます  
電話二三七番  
阿部石炭商店



お茶の値下断行  
本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして  
英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ  
煎茶四十目袋入 十銭より  
五十銭まで  
ほうじ茶四十目袋入 十五銭  
第二號十銭  
配 速 達  
風味 平町三丁目  
築本大勝園  
鈴木義忠  
電話元一六番



# 平町南裡稻田一帶に 死山血河の大戦闘!!!

## 石城青訓生聯合大演習

### 偵察機低く頭上を飛ぶ

#### 昨日と今日の戦況

既報石城郡青年訓練所聯合演習は昨日來執行されたが時節柄所生の

#### 自覺を促す處多大

るものあつたか午前九時迄に平第一小學校に參集する者豫定人員を突破して一千二百名を算し先づ是れを南北兩軍に分ち更らに兩軍を第一、第二の兩中隊に依る編成と爲し午後四時頃を期して先づ公園

#### 突端に陣營を構へた

南軍第一中隊に對して同軍第二中隊が夜襲を試み激戦數時の後遂に是れを突破し一方北軍側に於ても同時刻中神谷西端に陣地を有する第二中隊を向ふに廻して第一中隊が巧妙な夜襲を以つて突撃を開始し是れ又南軍同様午後七時半頃

#### 陣地を撃破し茲に於

て始めて攻防兩軍は合して大部隊となり夜營の形式を取り夜明けを待つて本日午前七時斥候戦を皮切りに南北兩軍は徐々に平町南裡一帶の耕土に馬を進め俄然壯烈な一大遭遇戦は開始されたが此時北軍の頭上を低

#### 南軍の偵察機(模型)

機)數臺算を亂して旋空し始めたるに對し北軍は少しも狼狽する處なく結果射撃を浴せ掛けて遂に其の機能

を失はしめ兩軍の戰闘益々たけなはとなり砲煙彈雨の激戰場を展開、勇敢なる各將兵は屍山血河の間に

#### 勇躍して奮闘時正に

午前九時嚙喰たるラッパの音響くを合圖に壯烈な演習は終了の幕を閉じた

#### 歩武堂々

#### 分列式

各來賓激賞  
平第一小學校庭に

午前十時半一千二百の青訓生は演習終了と共に縣社子會社頭を頭に整列し在滿兵の武運長久を祈願し直に平第一小學校庭に集合團歌の合唱裡に團旗掲揚を行ひ一同最敬禮の後知事代理縣囑託宮尾中佐の閱兵あつて分列、別項處戴の如き同中佐の講評あり來賓の祝辭に移り

第二師團囑託大泉少將、聯隊區司令官代理村少

をして今後の戦闘指導を容易ならしめたる行動は賞讃に値す  
(北軍)一、一般に志氣旺盛にして可なるも別令を嚴守せざるもの及び靜肅を欠くものあるを遺憾と

#### 武運長久を祈ると 在滿兵へ電文

#### 演習終了後に

#### けふ青訓聯合

本日の石城郡青年訓練所聯合演習の終了後同會長の名を以つて在滿關東軍司令官を始め第二師團司令官及び歩兵第二十九聯隊將士に左記の電文を送つた

(植田)坂本喜(小名濱)小野安吉 小野兵吉 田島繁夫 高木義隆(泉)遠藤保 猪狩春夫 志賀阿喜良

萬歳を三唱休憩後一同武器の入手を爲し午後一時から營中講堂に開かれる大泉少將の滿蒙事情に關する講演會に臨んだ

#### 宮尾中佐の 講評

その大要  
別項宮尾中佐の演習に關する講評概要左記の如くである

(南軍)一、夜襲の動作一般に元氣旺盛にして其の成績良好なるも稍喧燥の嫌なならず、一、安島斥候は能く任務を従ひ有利なる報告を馳し支隊長

す向一層夜間訓練するの要あるものと認む  
防禦陣地占領の際には極めて靜肅にして可なり然れども傳令及連絡員にして高聲を發するものあり

#### 伏見町長の 送辭

今年度の入營兵へ  
來る廿日午前十時から平町縣社子會社頭において舉行される今年度入營兵送別會において伏見町長は左の如き送辭を以て入營兵の行を送る筈である

惟ふに軍隊は  
大元帥陛下の親しく統率し給ふ所にして將卒の別階級の差は兵制の上に於

負ふの覺悟なかるへからす諸君入營の後には須らく優渥なる聖旨を奉體して時局を正視し夙夜精勵全力を傾注して克く其任務を竭し以て國體の精華と光輝ある祖先の遺風を顯彰せられんことを望む時下滿目蕭條朔風凜烈を加ふ庶幾は君國の爲め自重自愛能く奉公の誠を致し上聖旨に答へ奉り同胞の倚信に副はんことを敢て燕辭を述べて諸君の行を送る

昭和六年十二月  
福島縣町村長 伏見彦術  
石城支會長

木炭製造者  
大喜び  
石城山間部  
國有林拂下

木炭生産を主業としてある石城山間部民は低廉で材料の購入を得るため國有林の拂下方を希望してゐたが平營林署は來年度愈々之が拂下を決定したので來月早々實地調査に着手することになつたが之は同方面における失業者救済の意味も加へられてゐるもので同方部では之によつて勞働の機會が與へられると非常に喜んでゐる

虎眼患者  
七七〇名  
平町檢診終る

去月廿九日から十三日まで施行された平町トラ

檢診の結果、檢診人員七千五百七十六名のうち患者數は七七〇名の多數に上り醫師をして驚かしめてゐるが町内各區別患者數は大體左の如し

△新町、長橋、四四△研町、古鍛冶、五二△紺屋町、四五△田町、一五△一丁目、二一△二丁目、三三△三丁目、三六△四丁目、二〇△五丁目、一六△新川町、一八△材木町、三四△鍛冶町、二五△南町、四一△久保町、九△胡摩澤、四八△北白銀、五一△仲間町、一六△鎌田町、四〇△立町、三六△堤ノ内、八△月見町、三三△大工町、一四△南白銀、二六△播磨小路、三三△舊城跡、一七△鐵道官舎、一〇△八幡小路、七△北目町、二二△計七七〇名

木炭檢査事務  
打合せ出席者  
濱三郡木炭同業組合では十九日午前十時より原町支部事務所にて木炭檢査に關する事務の打合せ會を開催するが石城支部からは支部長草野副組頭の外檢査員、指導員、各支部役員等二十數名出席すると

往來  
△永野辯護士、十六日午前一時十一分歸平  
△大泉少將、同日午後零時五十六分來平  
△關内正一氏、同日午後四時四十五分福島行  
△野崎縣議、十七日午前五時四十二分福島行  
△諸橋警中同窓會長、酒井同副會長、同右

虎眼患者  
七七〇名  
平町檢診終る

去月廿九日から十三日まで施行された平町トラ

# 平町製綿業者は 休業の状態

## 之も日支事變の祟り 吉村氏視察から歸る

現在平町に工場を有する十餘名の製綿業者は今回の日支事變によつて従来原料綿を輸入してゐた天津地方との取引が途絶した爲めその相場は一時に高値となり太阪相場十貫目三圓四十錢だつた品が一躍五圓五十錢に擡頭し而も尙品不足を告げてゐる綿業界の現勢なので到底之が原料綿の購入に困難を感じ目下休業状態にある者もあるが平綿業組合の吉村安次郎氏は大阪方面に視察のため行つてゐたが十五日歸平した同氏の談によつて

でも飲んで迎へてくれたので色々非常に参考になる點を詳しく見る事が出来た、第一に感じたのは總て教材が動的であるといふ事です。設備の完備してゐる點や兒童の環境が違ふ點など非常に美しく考へてしました、玉川學園へ行つた時は全く自然そのまゝとの親しみのうちに教へる人も教へられる人も發達としてゐる姿はこの地方などではとても知り得ない

# 品もあらうに 三味線の落しもの 昨夜一丁目通りに

昨十六日午後九時頃所用の爲め平町へ来た茨城縣多賀郡南中郷字口棚大倉炭礦社員志賀政男(三)は隣家の長唄師匠から時價四十圓の三味線の修繕依頼を頼まれて三味線屋を尋ねてゐるうち本町通りで親戚の者と出逢ひ久し振だからと某飯店で一杯ヒツかけた所兩名とも泥酔し同夜十時頃相共に三味線屋を尋ね廻つてゐるうち一丁目地内で依頼された三味線屋を落したので青くなつて平署へ届出た處間もなく一丁目比佐彦太郎が活動の歸途伊關吳服店前でその三味線を拾得したので三味線は無事志賀の手へ戻された

# 女ながらも 御國の爲めに

## 江名の看護婦さん 滿洲派遣志願

石城郡江名町字中の作爲吉三女吉田つゆ(三)さんは昨年六月東京警視廳看護婦試験に合格今は郷里に歸つてゐるが日支の風雲は急を告げて居る際この時に當り女ながらも御國の爲め微力を盡くさうと十五日愛國婦人会福島支部に宛て看護婦として滿洲派遣採用を志願した

# 矢野訓導歸る

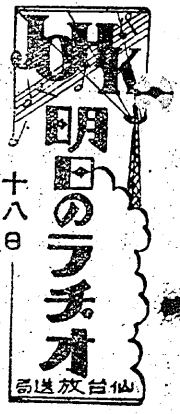
本第一校矢野訓導は去月十一日教育視察のため上京高師附屬小學校、成漢學園、玉川學園及鎌倉小學校を參觀昨十六日午後四時三十六分着列車にて無事歸平したが記者の往訪に大要左の如く語つた

# 救護法打合せ會

石城郡下各町村吏員及共濟委員

# 植田署の 移轉改築説

石城郡南部の要位にある植田警察署は現在の建物が腐朽甚しい上に狹隘の觀が



明日のラジオ

### 今晚の部

後六、〇〇 ハーモニカ合奏 描寫曲 他 仙臺 H S  
後六、三〇 英語講座 青木常雄  
後七、三〇 講演「學術上より觀たる阿蘇松本唯一」  
後八、〇〇 放送歌劇「コルネツイルの鐘」放送指

### 明日の部

前九、一〇 料理献立  
前一〇、三〇 家庭講座  
「盆栽の冬の手當」平

### 松諒三

後〇、〇五 俚諺「安來節」  
濱田梅吉他  
後一、五〇 日米對抗野球試合状況  
後六、〇〇 お話「ヒンデンブルグ大統領」老川茂信  
後六、三〇 英語講座 村岡博  
後七、三〇 講演「狩獵と鳥類」熊谷三郎  
後八、〇〇 放送舞臺劇「時雨の炬燵」中村鷹次郎  
尾上梅幸一座  
後九、一〇 端唄 空ぼの 浮氣同志 空ぼの 折々 南地濱寛

### 無事歸郷

上田外科院長 久振りの軍隊生活 變らぬ元氣

平町南町上田外科醫院院長上田耕作氏は卓越せる其の外科技術を一般から認識され業務益々旺盛を極めて居るが先般來後備役にて歩兵第廿九聯隊へ演習召集され留守中、同氏を信頼せる患者の寄託に添はんが爲め東京慈惠病院外科より醫學士蓮村省三氏を招聘し診療に従事する中、上田院長は昨十七日軍隊仕込みの健康さを土産に無事歸平從前通り診療に従事する事となつた、同氏は元氣に語る

「久し振りの軍隊生活は精神身體共に資する處多大でした、歸る早々大手術が控えて居り忙しいので未だどちらへも御挨拶

### 無銭飲食 數軒に亘る

失業魚夫捕る

神奈川縣三浦郡三崎町小網代生れ當時任所不定漁夫青木一郎(三)は十六日午後十一時頃石城郡小名濱町本町四三飲食店高橋修治方に無一物で三圓餘の飲食をなし逃走せんとしたのを取押へ其筋で嚴重に取調べた處同人は先月來秋刀魚漁の爲め小名濱へ這入つたが就職の道がないので先月來より小名濱古港加藤福松字下町の前橋豊吉其他數軒を無銭飲食をした事を自白したので餘罪取調中である

### 赤井村會は 十九日開く

過般來 紛糾を續けてゐる若松美三氏に對

### 平職業紹介所便り

求人部  
△海産物商雜夫 廿五才以下、住込月十圓内外(江名濱)  
△女中 卅才位、住込月五圓位、主も針仕事(平町染物業)  
△石材運搬夫 廿才乃至四十五才、人員卅名一日約八十錢位、飯場の設あり(磐崎村小名濱築港用石材部)  
▲求職の部  
△コック見習 廿一才、尋卒(山形縣)  
△新聞配達 卅八才、一高卒 通勤月十五圓位(紺屋町)  
△土工夫 四十四才、尋二 修月給八十錢位(平町)



小説



(八十七)

渡邊 默禪 作  
布施平八郎 畫

【載轉禁】

意氣地 (12)

『そんな話は後の事にして我慢して早く歩いて下さいよ、追かけられてつかまりでもすると大變ですから』  
歌治は後を氣にして頻りに振り回りながら、男の手を引張つた。

『ひ、歩きたいと思ふけれど背中から腰に掛けて、まるで焼けるやうに痛くつて……』  
……どうも……どうも……

『あら、どうしたんです、こんな處にヘタ張ちやあ仕様がないうやあありませんか、もう少し我慢しなげや』

『あ、歩けあしない……駄目だッ』  
『仕様がないうのね、しつかりして頂戴つてばッ』

森の多い山の手だけに、地平線に落ちかゝつた月の光は黒い若葉の蔭に吞まれて足元に瓦色の闇がひたひたと這つて居た、それでも路傍の生垣から突出した遅咲きの櫻の花が夜目にもそれと見えて身慄いするようにひら／＼と白いものを飛ばして来る、海岸に近いので



あらう春の夜の懐ろに、吸り泣くような寂しい波のさゝらきも聞えた。  
『だつて貴君、何時までもこんな處に立つて居られやしないわよ、車でもあつて呉れやア、ただけれども……困つたわい、こんな夜……』

言つて男の手を引張つた、でも源之助は殻を叩かれた寄生虫のように手足をぢぢめた切り少しも動かさなかつた。  
『駄目だ、歩るかれやしないうよ、お前だけ先に行つて呉れ俺はここに居るから』  
『何を言つてるのさ、貴郎を置き去りにする位なら、こんな苦勞はしやしませんよ、此處まで貴郎を連れ出すのどの位心配したと思ひです、私の苦心も少しは察して下さいな』  
『ひ、そ、それは分つて居る充分に分つてる』

深じやあ如何する事も……もう少し先に行つたらどつかに貸自動車があるだらうからそれを叩き起して一緒に乗るやうな事にしましようよ、ね、それまで我慢して歩いて下さいよ、お願いですから……さ早く』  
坂下に立憚んだ歌治はこう

『分つてるなら男らしくしつかりして頂戴よ、追手がかゝるとそれを取返しつかなかない事になりますからそんな事になれば折角此處まで逃げ出した甲斐がないじやアありませんか、あ、誰れか来て呉れないか知ら誰れでも構はないから通り

掛りの人があつたら、袖に縫つてなりと何んとかして貰ふんだに、ね、あ、困つたどうしたらよからうか』  
歌治はわく／＼と氣をもんだ、近くの人家を起して一時通れの場所に寄せて貰ふかとも思つて見たが何分夜深けの事殊に其附近は大きな屋敷が別荘ばかりで、さうする事が極めて臆空な計畫であつた、まご／＼して居る中に、後から何物か追つ蒐けて来るやうな恐怖の觀念が直覺的に迫つて来てぞく／＼と悪寒立つた。  
『貴郎、ここにこうして居ては、實に危険ですから、私おんぶして上げるはさ、手、をかして下さ、早く、お手を……』

美味し味く。て。の。安。い

これからの「食物は……」

◇ 鳥小焼 ◇

南町 鳥菊

電話二六八番

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電話一七〇

貸切は……

セダン揃ひで

貸切専門の

昭和タクシーへ

電話三四三三

うなぎ料理

◇ いよいようなぎの季節…… ◇

◇ 御用命はゼヒ江戸川へ ◇

江戶川

平館前通り 鰻料理専門 (電話六七七番)

切斷の苦しみなく……

靈藥ムテキ

發賣元 阿康藥舖

縣社下古鍛冶町(電話四四番)

米國製藥(無臭) 有偽物 要注意

レメドール (ヤケド、ヒビ、其  
他ヒフ病一切ス  
グキク効力本位  
がヨクトマル)

丹波博士創製 セキトメ

耳鼻咽喉科専門

平町南町一

増田醫院

電話四八二番

毛糸と編物用具

全部新色2.1

入荷致しました

相變らず御用命の程……

平町 相變らず御用命の程……

ハシモトヤ 糸店

上田外科醫院

平町南町 電話二一九番